そして、過去50年にわたって、日本は、粘り強くそうした技術の製品化、産業化を進めてきました。こうした多くの分野で日本は世界の特許の半分以上を持っています。
とくに太陽を直接のエネルギー源とする再生可能エネルギーは、石油のように枯渇することがありません。しかし、これまでは、日本で普及が進まなかったのです。
今の日本は、原子力発電の危機にあります。そのうえで、今後、世界的な石油危機が発生すれば、火力発電も石油の確保が困難になります。こうした事態の解決策として、太陽光発電などの再生可能エネルギーを一気に導入すれば、日本は安全な再生可能エネルギーの自給国家に生まれ変わります。
その時には、再生可能エネルギーを中心としたイノベーションが日本を中心として起きます。
また、日本はエネルギーの輸入に25兆円もの支払いを外国に行っています。日本は、再生可能エネルギー分野を中心として、国難を解決する技術への投資を至急増やさなくてはなりません。今の国難を解決する技術と資金、この2つを日本は世界一持っているはずです。いま心を一つにした日本人は、必ず、復活できると信じています。

第2弾　7月1日（金）「震災後のイノベーションを語る」

第２弾はUC Berkeley「知の広場」とUCLAの共催で、「震災後のイノベーションはどうあるべきか」をテーマに、黒川清先生と野中郁次郎先生に対談頂きました。
黒川先生はわがUCLA同窓会の会長として同窓会活動を仕切られておられます。UCLAではProfessor of Medicineを務められました。そして現在は政策研究大学院大学教授を務められています。特にイノベーション分野での科学技術政策の策定に深く関与されており、日本のリーダーとして活躍されています。
野中先生は本年からUCBの同窓会長に就任されましたが、一ツ橋大学名誉教授、およびUCB Fuji-Xerox Professor of Knowledgeを兼務されています。特に、暗黙知・形式知のスパイラルからなるSECI理論では、世界中にたくさんの信奉者を持つ経営学者です。
以下、黒川先生のブログから「野中郁次郎さんとの対話: UCB-UCLA同窓会のイベント」と題する記事の抜粋をご紹介します。

日本のイノベーションの大御所ともいえる野中郁次郎さん。世界的にも高く評価され、私も尊敬している学者です。多くの素晴らしい著書があり、私もいくつも好きな本があります。「失敗の本質」、「イノベーションの本質」、「イノベーションの作法」、「美徳の経営」などなど、調査分析と聞き取り、そこから「ことの本質」を見つけていくところがすばらしいのです。
先生の本や講義では、通常のビジネススクール的な分析と「ノウハウ」だけではなくて、むしろ本質を追及する人間らしさに裏打ちされた「リーダーシップ」と「共通の哲学」の追及があるからだと思います。いわゆるアリストテレスの言っている「フロネシス」の大切さです。言って見れば、日本のPeter Drucker的な方です。事実、野中さんは「First Distinguished Drucker Scholar in Residence at the Drucker School and Institute, Claremont Graduate University」なのです。
以前からちょっとご相談していたことですが、野中さんがUniversity of California at Berkeley (UCB)の日本同窓会長になられ、私がUCLAの日本同窓会長ですので、色々な企画をご一緒に、とお話していたのです。
7月1日、それが実現しました。「3.11震災後のイノベーション」をテーマに「野中さんと私」の対談を企画しました。大勢の方の参加を頂き、とてもExcitingで盛り上がった会になりました。夕方6時半から開始で、レセプションが10時まで続きました。
野中さんは翌日から大連、ということで早めにお帰りになりました。
一橋ビジネスレヴュー、最近出た「夏号 Summer Issue」 は「野中郁次郎大いに語る： 知識経営の最前線」が特集です。